

ホタテ貝殻「焼成カルシウム」洗剤



ホタテの貝殻を原料にした洗剤などについて語る竹中社長（近江八幡市のテイクファクトで）

衣類・洗濯槽 同時に除菌

湖国ナビ
VTR・経済

近江八幡市船木町の「テイクファクト」（竹中利和社長）が、ホタテの貝殻に含まれる天然カルシウムに注目した洗剤などの日用品を次々に開発し、クリーニング業界などで話題を呼んでいる。確かな洗浄、脱臭力に加え、天然素材で「人にも環境にも優しいものづくり」というテーマも魅力で、竹中社長は「開発力と併せて地域から愛される魅力ある会社として成長したい」と意気込んでいる。（西井遼）

近江八幡・テイクファクト 環境に優しい日用品次々

看板商品は洗濯機の洗濯槽クリーナー「洗濯槽快」。原料はホタテの貝殻のみで、独自製法で焼き上げた「焼成カルシウム」という粉末。30歳の小袋を洗濯槽に浸して普段通りに回すだけで、洗濯物の除菌や消臭、洗濯槽のカビ取りが同時にでき、部屋干しの臭いも抑えられる優れものだ。約10年前の創業当時、「洗剤にカルシウムを混ぜると洗浄力が落ちる」というのが業界の常識だった。市場は国内外の大手メーカーなどブランド中心の状態、後発の中小企業には苦しい船出だった。知人を頼ってクリーニング店で店頭販売したり、各地のイベントで商品のPRを行ったりと、地道に販路を開拓していった。

転機は大型量販店から実演販売の声がかかったこと。確かな品質が口コミなどで広がり、今では年間100万個以上の売り上げを誇るヒット商品となった。焼成カルシウムを使って、トイレの除菌・消臭洗剤、衣類や部屋用の消臭ミストスプレーなども開発した。汗や皮脂などに含まれる脂肪酸の「酸」、アンモニアの「アルカリ」のいずれの成分も分解する能力があり、応用範囲は極めて広い。洗剤の主成分となる界面活性剤の働きも高め、量を減らして環境への負荷を抑えられるという。クリーニング業界をはじめ、病院や介護施設などからも引き合いは多いが、社長以下20人と小規模経営を続け、コスト軽減のための海外進出などは考えていない。竹中社長は「縁があったこの地で起業した。雇用、製造を通じて地域経済に貢献できる元気な会社を育てたい」という。「消費者が本当に求めているものはないか。それを知るためにも地域に根ざし、人と人とのつながりを大事にし続けた」と力を込めた。

